ホームルームとカウンセリング

尾　上　正　二　郎
Siyougiro ONOUE

は　じ　め　に

学校教育は，民主社会に於ける有能な市民の育成を目標とし，従つてその対象となるものは，教科の学習のみならず，生徒の生活のあらゆる分野でなければならない。従来，学校に於ける教育は，教育課程，指導，経営，と大きく三つの面からとらえて考えられてきたようであるが，教育課程と指導は，生徒に直接働きかける面から直接教育活動と呼ばれ，後者は，間接的に生徒に働きかける面から間接的教育活動と呼んで大きく二つの面に区分して考えられた。かつて，ヘルバルトは，学校の営みを教授，訓練，管理の三つに分け，特に教授と訓練を本来の教育と呼んでいるが，今この直接的教育活動とみられる二側面について，ガイダンスの発生的立場からまとめられたものを考察し，ガイダンス運動がどの様な所から発生し，それが如何に発展して来たかを考えてみる事によつて，ガイダンスの重要な基盤であるホームルームと，同じくガイダンスの一面であるカウンセリングについて，考察してみたいと思う。

I　ガイダンス運動の發展

個に徹する教育，それは我々のモットーとする所であり，これこそ，ガイダンスの生命であろう。従来，教育活動は長い間，学校指導のもとに行われる一切の経験という立場に立つカリキュラム一本にまとめられていたが，教育理念の時代と共に進展するに反し，カリキュラムは固定化の傾向をたどりつつあつた。そこに教育理念とカリキュラムの固定化傾向の間には必然的にギャップを生じ，教育理念はそのようなカリキュラムに対し，それぞれの立場に向つて，（1）個に徹する教育（集団カリキュラムに対し），（2）人格的成長を助ける教育（主知主義傾向）。（3）生涯の計画を助ける教育（通り一辺的）。（4）生徒の欲求を残りなくみたす教育（大人の欲求）。（5）生命のこもつた教育（形式主義）でなければならない。と，主張した。その後両者共に平行的に独自な立場に立つて進んできたが，20世紀の心理学が生んだ個人差の著しい事実は，カリキュラムの個別化運動に拍車をかけた。しかるに，ガイダンスの要求する所はそれでは満たされず，個人カリキュラムに徹底しなければならないとの主張は，カリキュラムの上では非常な困難があり，教科中心のカリキュラムではガイダンスの使命は果されない事を認め，これを補充する教育活動として課外活動が試みられたが，課外であるという点からしてうまくいかず，組織的にもつと効果を挙げるために特別教育活動制が布かれるに到つた。即ち，クラブ活動やホームルーム，生徒集会，その他の課程を組織化し，これを補充しようとした。又一方文化の進歩は，諸種の産業を起し，作業内容は次第に専用化し，高度の技能を必要とするに到り，人口は都市集中的傾向を辿つて行つた。このような社会に於ける学校は必然的に規模も大きくなり，全体的機構，内容は多くの部門に分かれてきた。この様な近代学校に於ては，生徒の生活指導の面に多くの困難があり，個々の生徒の当面している問題を責

任をもつて援助し，指導する教師が乏しく，各人の統一ある人格性，或は学習の能率化，健康指導，余暇指導その他について指導面に弱みがあつた。特に現在の中学校に於ては，それ以上の弱みをもつている。ここにあつてガイダンスは重要な位置を占めている。このようにして，ガイダンスの重要性は，次第に一般に認められ発展してきたのである。現今，中学校以上に在つては，教科担任制であり特に中学校は義務教育であつて，そこには，前述の如き困難や欠陥があるがそれを補うための一つとして，生徒をできるだけ小さいグループに分け，そこで生徒の生活全般にわたつて指導のできるような組織をもち，指導の万全を期する必要があるとし，この必要をみたすために生れたものがホームルーム組織である。但しこれも又色々な面から反省され，その欠陥もあげられているがそれについては後述する事にする。そこで更にその欠陥を補うもう一つの工夫として，いわゆるカウンセラー制の設置案である。そこで次にカウンセラーのなす，カウンセリングについて考察する事にしたい。

Ⅱ　カウンセリングの目的と實践への考察

ガイダンスの場として重要な役割を担つて生れてきたホームルーム制も色々な欠陥が認められ，ホームルームによつては十分にガイダンスの目標が達せられない（勿論，ガイダンス実践の場はホームルームだけでなく教育活動のあらゆる場に於て行われねばならない），ために更にもつと深く個々の生徒の生きた生活の指導の徹底を期するために考えられたとみるカウンセラー制のめざす所は何であろうか。それについて，中等学校に於けるカウンセリングとガイダンス，という書の中に紹介されているものをみると，

1　生徒が成功するために重要なこと柄に関する知識をその生徒に与えること。
2　生徒の持つている問題を解決するために役立つその生徒に関する参考資料を知ること。
3　生徒と教師との間が相互に理解し合うこと。
4　生徒が困難を解決するための計画を手伝つてやること。
5　生徒を助けて自分自身――自己の能力，適性，機会等を一層よく理解させること。
6　生徒を励まして特殊な能力と正しい態度を発達させること。
7　首尾よく目的を達成するように生徒を鼓舞して努力させること。
8　生徒を助けて学校の選択や職業の選択をさせること。

その他，多くの学者の説があるが，要するに，カウンセラーとしての資質をもつた専門的補導係と生徒との間に個人的な，ダイナミックな関係をもち，自分だけで処理できなく悩んでいるあらゆる問題について必要な資料を得て，必要にして適切な方法により生徒の問題解決を助け，自から解決するよう援助する事が目的である。とまとめられるのではなかろうか。

このような目的を達成するためには，個人についての色々な資料が必要であり，その資料を得るための方法その他について習熟していなければならない。時間的にも，又その要領，判断，問題の性質に適合した資料等いずれも容易ではない。面接，追随補導等も専門的知識と多くの経験が必要とされている。しかるに学校の現状はその人の高度な資質は抜きにしても特別に専任の補導係を置

く事もでき難い現状であり，その実現は見透しもつかないようである。しかしながらカウンセリングを受ける様すすめたい，又自分から進んで相談したいと思つている生徒が如何に多い事か。これに関して悩みの調査，基本的欲求検査実施の結果などこれを裏づけるものである。次に示すのは去る9月6日実施したホームルーム反省としての一調査であるが，手続きその他については全く不完全極まるものであるがその示す数字は上記のカウンセリングの必要を物語る一資料として幾分役立つのではなかろうかと思つて揚げることにした。

質問紙（無記名姓別記入）

注意……省略

問　1　a．あなたは現在何か困つている事，悩んでいる事がありますか。
（(イ)ある　(ロ)ない）

b．それについて親切な，満足出来る相談相手となる人を現在もつていますか。
（(イ)はい　(ロ)いゝえ）

c．それは次の中の誰ですか。
（(イ)父，(ロ)母，(ハ)兄姉，(ニ)担任の先生，(ホ)担任外の先生，(ヘ)親類，(ト)友達，(チ)その他）

問　2　困つた事が起きたとき

a．本当に相談相手になつてもらう人がほしいと思いますか。
（(イ)はい，(ロ)いゝえ）

b．現在その様な人がほしいですか。
（(イ)はい，(ロ)いゝえ）

問　3　ホームルームで行われる事は，現在あなたの困つている事を解決するのに役立つていますか。
（(イ)役立つている，(ロ)役立つときもある，(ハ)役立たない）

問　4　ホームルームの先生に相談に行きたいと思つた事がありますか。

a．（　）相談したいと思つている。

b．（　）相談したいと思うがよい機会がとらえられない。

c．（　）特別相談したいと思つた事はない。

調　査　の　結　果

被検者	男 102 女 96 計 198		応答者数 男	応答者数 女	応答者数 計	無応答者数 男	無応答者数 女	無応答者数 計
問1	a	イ	64	63	127	0	3	3
		ロ	38	30	68			
	b	イ	42	44	86	7	13	20
		ロ	53	39	92			
	c	イ	15	17	32			
		ロ	27	31	58			
		ハ	10	8	18			
		ニ	18	10	28			
		ホ	1	0	1			
		ヘ	2	0	2			
		ト	8	7	15			
		チ	2	3	5			
問2	a	イ	64	54	108	9	20	29
		ロ	29	22	51			
	b	イ	53	45	98	18	13	31
		ロ	31	38	69			
問3		イ	31	30	61	11	8	19
		ロ	13	16	29			
		ハ	55	41	96			
問4		a	35	48	83	8	9	17
		b	26	23	49			
		c	33	16	49			

ここで完成されたカウンセラーの出現をまつて，そのような指導は現状ではでき難いとして放置しおくわけに行かない。教育は現実の上に立脚しなければならない。しからばそのような問題について如何にして行つたら良いか。それは言うまでもなくホームルーム活動を強力に推進し，ホームルーム・スポンサーによつてなされる事が最適といえよう。これは又，ガイダンス運動の発展過程から考えると，ホームルームの生れるその時から，ホームルーム自体の目的とする所であつた。そこで現今行われているホームルーム活動について今一度深く反省し，ホームルーム活動に於て本来，

目的としている所を果すべく工夫し，改善して行く事が必要である。ここでホームルームを強調し教科指導の面に触れなかつたが，ここに於ての指導も又重要な事で，この面に於て果され，援助され，その役割も大きい事を忘れてはならない。同様ホームルームについて考える場合，広く教育全野の中に於ける位置，その他の教育活動とのつながりに於て考えられなければならないと思うが，次にホームルームは如何なる目標をもち如何なる機能をもつているかについてふれてみたい。

Ⅲ　ホームルームの機能と目的

1）ホームルームはガイダンス組織の基盤であり，学校管理上からはその運営を円滑にするものである。

2）教師と生徒との間の情味ある個人的結合の場として，

（a）個性の伸長を図る。（b）非行の予防，非行の原因を究明し補導する。（c）生徒のよき相談相手となつて個人の悩みの解決を援助する。

3）社会性，人格性，よき習慣形成の場として，

ホームルーム形成者としてホームルームの力動的な活動に積極的に参加することを通じて社会性を理解し，より高い人格の形成に役立ち，よき習慣を形成する。

4）生徒の学校生活に於ける基地として，ホームルームは憩の場となり，又学校の諸活動への積極的参加を援助し，得られた経験はそこで肉付けされる。

5）生徒の自治活動の基礎単位として，民主的集団生活の場として自治的活動の計画，実践，評価をなす。又道徳的，教育的指導のもとに諸種の経験を得る。

6）生徒の身体的成長発達を助成する場として。

7）課外的活動の場として。

8）家庭と学校とをつなぐ場として。

Ⅳ　ホームルーム反省の一面

このような目的，或は機能をもつて生れたホームルームは，その目標達成のために色々な編成，組織，そして運営が試みられ，学校として或程度統一をもち，各ホームは個性的色彩をもつ計画のもとに実施せられて来たが，現在尚幾多の困難があり，発足以来日浅く，設備の面にも乏しく，中には義務教育であるため止むなく席をもつ生徒の多い，従つて個人差の甚だしい中学校に於いては，特にその円滑な運営に困難を感じている。中でも，最も手薄になり勝で困難な，個性指導の不徹底は最も大きな欠陥であろう。それは前記の調査結果によつても示されている通りで悲しい事実である。次に実際にホームルーム運営に当つての反省される主なものをひろつてみると，

1）職員数の不足のため教師の負担が重く研修の機会が制約されている。

2）計画のための資料が不十分であり，従つて計画が単調に流れ安い。

3）個人指導に達するには時間，ホームルームの員数に問題が残されている。

4）特別室の設備がない。

5）カウンセリングに必要な資料の収集とこれを有効に用いるための研究が極めて不十分である。

6）ホームルーム運営上の諸問題についてお互に反省し合う機会に乏しい。

7）校外活動，生徒会，クラブ活動等とのつながりが十分でない。

8）生徒を知るに必要な科学的調査の方法，測定技術，手続き，診断等の研究が十分でない。

その他，深く，こまかく反省すれば，教師面，生徒面，計画の面，施設の面その他色々考えられるのであるが，基本的なものとして以上の様な事が考えられる。

む　す　び

カウンセリングの必要を認め，そしてそれはホームルームの重要な一面でもあつたのであるが，前の反省，調査結果からもわかるように実際上困難な点が余りに多い。しかるに，それを補う重要な役割をなすと考えられるカウンセラー制の出現も早急にはでき難い現状にある。そして今我々が困難とし，或は現在貧困を来たしているカウンセリングの問題は，新しい教育の目標からしても最も根本的な問題であり，この事はすべての教育活動の成否を左右するもののように感じられる。そこで，現在に於て，カウンセリングを担当するものは，ホームルーム・スポンサーが最適であろう．それは前の調査結果にもやはり表われている。

§　ここで前の調査結果から色々判断するには，この期の生徒の心身の発達段階，生徒をとりまく環境，日常に於ける生活状況の調査，観察等を併せ綜合的に推理し判断する事が大事であると思う。

従つてホームルームに於て工夫され，カウンセリングする事に積極的な努力が払われなければならないのではなかろうか。そこには個々の力を結集しお互に協力し合う事によつてより強力な力をもつて工夫され，研究されて行かなければ以前と殆ど変る所のない状態に陥るのではなかろうか。そのために生徒補導組織を今一度この様な立場から吟味し，現今ホームルーム活動の欠陥，特に個人指導の不徹底等を補い，一歩なりとも望ましい姿に近づくべく，組織面，内容面，活動運営の面等研究する必要があると思う。そしてその中のホームルーム研究委員会の如き研究委員会に於て，学校の現状を反省し，それによつて更に研究され，各ルームのスポンサーの仕事を助け，必要に応じてその委員会がカウンセラーの役目をなす様な事等も考えられる。最後に，これについて述べる事が本論になるのであり，以上述べ来たつた事は序論に過ぎない事をお断りし，更にここにまとめた事も非常に冒険的な試みであり，根本的に誤つている点が多いと思うが，諸先生方の御批判を乞う次第である。

（伊敷中学校）